

第百十五師團独立歩兵第三十大隊略歴

年月日	概	要
昭一四、三、二一	中華民国河北省天津に於て独立混成師七旅團独立歩兵第三十大隊の編制を完了す	
二、二六	大隊長 陸軍中佐 山崎 茂	
大隊は天津を出發し山東省臨山泉塩山に到着 同地に駐屯附近の警備に任ず		
自昭一五、七、一四 至昭一五、七、二一	天津板乳北上匪團の追撃戦を実施す	
一五、一〇、一	才五旅團に配属	
一、二六	山東省舊南道北部地区肅正討伐に参加す	
一、二五	山東省威海衛、芝罘附近に駐屯附近の警備に任ず	
同日の警備並に附近の討伐を実施す		
自昭一五、二、一八 至昭一五、二、二六	黄河右岸地区掃蕩戦に参加す	
自昭一六、六、二九 至昭一六、七、六	清水泊西北地区剿共戦に参加す	

(294)

2094

昭一七、一、一五	大隊長 陸軍大佐 中村武男
昭一七、二、一七	才三次魯東作戦に参加す
昭一七、一、三三	
昭一八、一、一七	才十二軍十八秋作戦に参加す
昭一九、一、一四	
昭一九、三、一	大隊長 陸軍中佐 塩見克巳
三、一〇	京漢作戦参加のため茨城県を出発
	山東省張店に部隊を集結す
三、三三	張店を出発安徽省蚌埠附近を経て河南省開封県中牟に向上前進す
四、一八	中牟を突破す
四、二三	河南省新鄭県新鄭攻勢戦に参加
五、三	許昌攻勢戦に参加
五、五	襄城を攻めす
五、一〇	魯山攻勢戦に参加したる後附の討伐作戦を実施す
六、一〇	魯山を出発し襄城―鄆城―西平―上蔡―汝南を経て附近の残敵掃蕩を実施しつ
七、一五	つ駐馬店―確山に至り同地の警備並に附近の残敵掃蕩に任ず
八、一五	駐馬店に在りて同地を警備す
	編制改正下令に依り河南省開封県龍興鎮に於て才百一五師団独立歩兵才三十欠

(296)

2095

年月日	概略
昭、一九、八一七	隊の編制を完結す
九、三	大隊は主力を以て西平に一部が商水泉岡家口及冷飯店に前進す 主力は岡家口に駐屯し附近の警備に任す
二、一六	大隊長 陸軍少佐 天野 茂吉
三、三、三	豫鄂作戦参加の總岡家口を出發
三、三〇	河南省汝南縣汝南に何以前進す 騎兵、才四旅團に屬屬
三、三一	湖北省光化縣老河口攻畧の總汝南を出發す
三、三二	老河口攻畧中止を命ぜられ湖北省光化縣南田庄にて復命を待機す
四、七	南田庄を出發
五、六	老河口周辺の残敵掃蕩を實施す
六、三	河南省新野縣新野に駐屯し附近の討伐作戦を實施す
八、三	歩兵才八十五旅團長の指揮下に入り河南省浙川縣老君台方面の攻畧に参加の ため新野を出發す
九、二	大東亜戦争停戦詔書發布並に復員下令せられたるに依り河南省浙川縣于家庄を 出發す
九、二	河南省鄆城縣牛嶺に在りて復員準備、復員のため鄆城を出發す

(297)

2096

二、四、一八	上海に到着
四、二三	才百十師團才百十聯隊才二大隊と才十七兵站勤務隊の業務を交代継承す
五、一一	独立混成才八三旅團独立歩兵才四九五大隊に兵站業務を引継し任務の交代を為す
五、一九	精進の爲上海を出帆す
五、二四	博多に到着す。上陸完了。

第百十五師團独立歩兵才三百八十五大隊略歴
 陸軍大尉 石川徹郎

年月日	概	要
昭一、九、七、一〇	昭和十九年軍令陸甲才七十九号に依り臨時編成下令	
八一	才百十五師團独立歩兵才三百八十五大隊編成着手	
八一五	編成完結	
	編成完結場所	
	中華民國河南省西平県西平	
昭一、九、九、一〇	才一朔休果作戦及才二朔滑泉作戦	
至昭一九、一〇、三〇		
昭一九、一一、二四	京漢線南段沿線地区掃蕩作戦	
至昭一九、一三、二四		
昭一九、三、一	豫鄂作戦	
至昭一九、七、三〇	停戦詔書発布	
昭一九、八、一四	復員下令	
八二五	停戦協定締結	
九、二		

外 3 北支 6

(297)

2098

自昭二〇、九、八 至昭二一、四、一三	河南省鄭城景國城に在リ之才五戦区の管理を受ク
四、一四 四、二四	内地帰還の爲河南省鄭城景國城出発 上海巻出帆
五、三	仙崎上陸
五、三	将校以下の豫備役編入現役満期除隊及召集解除 復員完結

(300)

2099

独立歩兵第百八十六大隊略歴
陸軍少佐 鈴木幸三郎

年月日	概要	要
昭一、七、一〇	軍令陸甲、才七十九により才百十五師團臨時編成下令（滿成改正）	
八、一五	中華民國河南省許昌縣許昌に於て独立混成才一旅團、独立混成才七旅團、独立歩兵才二旅團の差別各一中隊を基幹とし才百十師團、才五十九師團、戦車才三師團の一部を以て滿成を完結す	
二、三、一三	滿成完結と共に河南省許昌縣許昌に駐屯	
八、一四	同地附近の警備並に京漢線の確保に任ず	
八、一五	駐地出張予鄂作戰に參加す	
八、一四	停戦詔書發布	
八、二	復員下令	
九、二	停戦協定締結	
九、八	河南省鄭城縣張庄に集結	
二、四、二四	内地帰還の爲集結	
四、二六	上海出帆	
五、四	佐世保港上陸	
五、四	同地に於て復員式を挙行す	

(301)

1500

2100

独立歩兵才三百八十七大隊（北才一五六一大部隊）略歴

陸軍少佐 今 藤 好 雄

年月日	概	要
昭一及七、七、 八一五	昭和十九年軍令陸甲第七十九号により臨時編成下令され陸軍大尉今藤好雄編成に着手 中華民國河南省鄭城景鄆城に於て独立混成才七旅團及第百十師團の較属存在基幹として編成完結 当日の編成左の如し	大隊長 今藤好雄 以下 五九名 才一中隊長 辻 小四郎 以下 二〇二名 才二中隊長 山本善一郎 以下 一八〇名 才三中隊長 友野東洋澄 以下 二一五名 才四中隊長 本田 昇 以下 二一三名 才五中隊長 比賣宮了介 以下 一八〇名 機関銃中隊長 若野敬太郎 以下 二〇二名 歩兵砲中隊長 吉田 敬雄 以下 二〇六名
		計 一四五七名

年月日	概 要
昭一九、六七	警備交代の爲中華民國河南省舞陽県に向い即城出發
八三一	部隊の主力（才一、才二中隊を除く）は未嶺店に、才一中隊は中華民國河南省葉県常派庄、才二中隊は舞陽
一五、二〇	県城に位置し附近の討伐警備に従事する傍砲機甲火力共に絶対優勢なる米式化中央軍の總反攻に対し強固なる以防線点たる陣地構築に着手
一五、二〇	京漢線南段地区掃蕩作戦参加の爲陣地構築作業は略々概成に之中止
一五、二〇	京漢線南段地区掃蕩作戦参加の爲駐屯出發
一三、二	正山鎮―牛蹄―駐馬店―汝南―高水固水固並の掃蕩に従事 原駐地に復取
二一、三	此の間に於ける戦斗左の如し
二一、三	河南省遂平県牛蹄攻畧戦
二一、三	河南省上蔡県高街附近の戦斗
二一、三	河南省上蔡県躍樓附近の戦斗
二〇、二〇	討伐警備の傍陣地構築作業続行 陣地完成
二〇、二〇	此の間に於ける戦斗左の如し
一五	舞陽県南部隊掃蕩戦

(303)

1019

2102

二、九	舞陽県蜘蛛山附近の戦斗
自昭二〇、三、三二	河津部作戦に参加、河南省方城県、南陽県、魯県、内郷県、浙川県附近に於ける主要戦斗左の如し。
至昭二〇、八、一三	
三、二二	舞陽県小尖店附近の戦斗
三、三〇	内郷県高山附近の攻防戦
自昭二〇、三、三二	内郷県張湾附近の攻防戦
至昭二〇、四、一三	
自昭二〇、六、二二	浙川県毛皇台附近の戦斗
至昭二〇、八、一五	
昭二〇、八、一八	浙川県毛皇台附近の攻防戦
八、一九	停戦命令受領戦斗行動停止
九、八	京漢沿線進出後方械闘の爲浙川県上栗附近に於て内郷―南陽―方城―舞陽を経る
二、四、二二	郟城県鉄篋に到着復員準備
	飯冨の爲離れ此出飛
	郟城站附近に集結
四、一五	鉄道により、郟城出発

(304)

2103

年月日	概略
昭二、四、二〇	鄂州―開封―徐州―浦口 南京を經
四、二五	上海に到着、乗船準備
四、二六	大隊主力、陸軍少佐 今藤好雄以下三百七十五名）は輸送艦友太に依り 大隊の一部、陸軍大尉 吉田敬雄以下四百十一名）は輸送艦守久に依り夫々 帰國の爲上海出帆
五、一	大隊主力、
五、三	大隊の一部は夫々佐世保上陸

(525)

第百十五師團砲兵隊略歴
陸軍大尉 吉田 成行

年月日	概	要
昭三〇、三、五	臨時編成下令	
三、一五	編成完結	
	編成完結場所	中華民國
昭三〇、三、一五	予鄂作戦参加	
昭三〇、七、三二	停戦詔書発布	
八、一四	復員下令	
八、二五	停戦協定締結	
九、二	河南省鄭城景漯河管在リマ才五戦区の管理を受く	
自昭三〇、九、八 至昭三一、四、一三	内地帰還の爲河南省鄭城景漯河管出發	
四、一四	上海出發	
四、二四	仙崎上陸	
五、三	將校以下の予備役編入並現役滿期除隊及召集解除	
五、二一	復員完結	

(306)

2105

第百十五師團士兵隊略歴

陸軍大尉

西尾

江

三

年月日	概	要
昭一九、八、二五	編成完結	
八五	中華民國河南省歸城縣界河砦に駐屯	
昭一九、一〇、三	河南省泌陽縣十師附近陣地構築	
至昭二〇、一、一四	豫鄂作戦参加	
三、一五		
昭二〇、四、一	湖北省光化縣老河口又界砦参加 爾後同地附近の警備	
至昭二〇、四、八		
六、三	老河口出發	
六、三	河南省内御泉郭河着 爾後同地附近の警備	
六、三		
八、三	河南省内御泉郭河出發	
九、八	中華民國河南省歸城縣	
一九、七、十	軍令陸甲中七九号により才百十五師團臨時編成下令	
八、一	編成着手	
八、五	河南省歸城縣界河砦に於て編成完結	
	編成完結時兵力 将校五、下士官六、兵三、馬五、一	

(327)

年月日	概	要
昭一九、一〇、三 自昭一九、一〇、三 至昭一九、一〇、三六	部隊は滿成谷岳後梁河峯に位置し新古沢地域（京漢鉄道沿線地区）の警備確保に任ず 京漢線南段沿線地区掃蕩作戦に参加	河内省鄆城縣界河峯―遂平―駐馬店道及其附近の道路補修並道路新設作業
一〇、二六	諸市店府紅の戦闘	諸市店東方約六百米の地点に於て約四百の敵に遭遇（十三時五十分）該敵を攻 撃敵は屍体一三を遺棄し西北方山岳地帯に遁走せり（十九時） 本戦闘に於て戦死兵二、輕傷下士官一を出せり
自昭一九、一〇、二七 至昭一九、一〇、二八	駐馬店―沙河店―牛跡道の新設並補修作業	牛跡攻勢戦に於ては砲兵の進出を支援且独立歩兵才二十七大隊の陣地占領に協 力す
自昭一九、一〇、二九 至昭一九、一〇、三〇	独立歩兵才二十七大隊に配属牛跡附近の陣地構築	駐馬店出發 梁河峯―駐馬店―牛跡―羊母―鄆城―老河口（湖北省光化縣）道 を前進

(306)

2107

年月日	概 要
日昭三〇、四、一 至昭三〇、四、九	歩兵才八十五旅団の指揮下に主力を以て配属、戦車突入の爲破壊口を開設且才 一線部隊と共に突入す（老河口攻略戦） 本戦間に於ける戦死突九 負傷、見習士官一、下士官四、兵七（内重傷二） 一部を以て南陽攻略戦に参加 更に一部を李官橋攻略戦に参加す 石期間に於ける兵力配属中の者を含み五三五名 将校九、下士官四九、兵四七七
六、三	老河口攻略後同地及其の附近陣地構築作業
六、九	河南省内御泉郭河着、爾後同地附近陣地構築作業
八、二四	河南省内御泉郭河出発
九、八	郵城泉木庄着同地駐屯
一五、四、九	爾後中華民國才五戦区の管理下に入る
四、一四	内地帰還のため河南省歸成出発 鉄道輸送により上海進出

(309)

内々北支

四二七、上海出帆
 四二七、田迎巻上陸
 五、二日前に於て復員完結

階級	区別					
	計	所在不明	生死不明	入院	現地解除 徐隊召集 解除痊愈者	帰還人員
将校	九	一	三			五
准士官						
下士官	三一		九	二	一	一九
兵	一七八		一	九		一六八
計	二一八	一	一三	一一	一	一九二

(310)

2109

第一百十五師團通信隊略歴
 陸軍少佐 福 岡 辨 次

呼 月 日	概 要
昭一九、七、一	昭和十九年軍令陸甲才七九号により臨時編成下令
八一	才百十五師團通信隊編成着手
八一五	編成完結
	編成完結場所 中華民國河南省鄭城泉栗河砦
日昭一九、八、一五	予所地区討伐並警備
至昭二〇、三、二八	
自昭二〇、三、一	予所作戦参加
至昭二〇、七、三	
八一四	停戦證書発布せらる
八一五	復員下令
九、二	停戦協定締結
在昭二〇、九、八	河南省鄭城泉栗河砦に在りて才百十五戦区の管理を受く
至昭二一、四、一四	内地帰還の爲河南省鄭城泉栗河砦出發
四、一五	

本
北
支
石

	<p>五、二 既三五 度兒島上陸 上海卷出帆 將校以下の豫備役歸入、現役満期除隊反召集解除</p>
--	---

タ
ン
キ
シ
ノ
シ
ヨ
ク

(312)

2111

第百十五師団輜重隊（北才一五六一八部隊）略歴

陸軍大尉 斎藤 忠一

年月日

昭
和
一
九
七
一
五

概

要

（昭和十九年度軍令陸甲才七九号）

完結

編成管理官

陸軍中將

内山 英太郎

陸軍中將

杉浦 英吉

副成要員

主として左記部隊の差出による

独立歩兵才二十六大隊

独立歩兵才二十七大隊

独立歩兵才二十八大隊

独立歩兵才二十九大隊

独立歩兵才三十大隊

独立混成才七旅団

自動車才二十五聯隊

自動車才二十六聯隊

才六十二師団輜重隊

北京兵争部（現地志百卷）

目昭一九、一〇、七	至昭一九、二、二八	目昭二〇、三、一	至昭二〇、七、三二	九、六	二、四、一三	四、三	四、三〇	
部隊主力を以て京漢線南段沿線地区掃蕩作戦に参加		豫鄂作戦に参加		停戦協定締結に伴い河南省鄭州地区に集結復員準備		鄭州地区出発	上海出発	舞鶴港上陸

(3/4)

2113

第百十五師田野戦病院略歴

病院長 田中正 結

年月日	概 要
昭一九、八一五	<p>中華民国河南省鄆城県鄆城 編制 病院編成と共に本部は河南省鄆城県盧庄鄆城東南約四村に位置し一部を以て盧庄算陽及碓山に夫々患者療養所を開設す 昭和十九年秋季豫南地区の討伐に当りては患者収養業務の爲一部を派遣す 豫鄂作戦発起せらるるに當りては主力を以て鄆城直轄と爲り一部を以て各旅團作戦地域要地に進出 隨所に野戦病院（患者療養所）を開設し傷病者を収養す 停戦に依り同年九月原駐地盧庄に転進す 停戦協定締結</p>
二、三、	
九、二	
二、四、九	内地帰還のため河南省鄆城県盧庄を出発
四、二三	上海出帆
四、三〇	仙崎巻上陸

第百十五師団病馬廠略歴

年月日	概	要
昭一九、八、一五	軍令陸甲才七九号により才十五師団病馬廠編成（廠長陸軍獣医中尉 奥村 喬）に編成 人員 将校四、下士官一、兵六〇 計 七五名）	
昭一九、二、三八	河南省鄆城県萬庄に開設	
昭一九、二、三八	同地に於て病馬の収容、補充馬の交付業務を開始す	
昭一九、二、三八	京漢線南段汝線地区掃蕩作戦参加、病馬の収容に任ず	
昭一九、三、一五	豫鄂作戦参加の爲鄆城県渠河砦萬庄出發、河南省鄆県三里橋に駐留、同地に於て病馬の収容	
六、八	廠長水上兵備要員として帰還に伴ひ陸軍獣医中尉 柿本 勝廠長として着任	
六、二五	河南省鄆県許溝に移駐、同地に於て病馬の収容	
八、一四	停戦詔書発布	
八、二五	復員下令	
九、二	停戦協定締結	
一〇、一五	河南省鄆城県呂陵御柳庄に集中	
三、四、二五	内地帰還の爲渠河砦出發（柳庄）	
四、二五	上海港出帆（廠長以下 五八名）	

(316)

2115

年月日	概
昭一七、一三、一四	綏遠省包頭騎兵集團司令部に於て副成を完結し爾後同地附近の警備に任ず
自昭一七、一三、一四	綏遠省包頭附近警備
至昭一九、三、二五	京漢作戦参加
昭一九、三、二五	運賃地区会戦参加
至昭一九、五、二一	河南省鄭州附近に集結
自昭一九、六、一	河南省襄城附近の警備
至昭一九、六、一五	「L」号作戦参加
一九、六、二〇	北平附近に集結の爲襄城出發
官昭一九、七、一五	臺北に位置し北平附近に警備
至昭二〇、三、三〇	
官昭二〇、三、三〇	
至昭二〇、六、三〇	
二〇、七、一〇	
自昭二〇、七、二六	
至昭二〇、八、一三	

戦庫才三師団司令部略歴
 陸軍中将 山 路 秀 男

(2/8)

2117

年月日	概	要
昭二〇、八一四	北平に移駐	
八一五	北平に於て終戦の命令を受け爾後復員業務を完遂	
一〇、三	陸軍少尉系賀英治以下二名留守業務処理要員として陸軍留守業務部に転属のため北平出發	
二、二〇	陸軍主計大尉浅雄吉雄以下四名上陸地復員業務のため北平出發	
二、二二	陸軍大尉小林卓樹以下二名上陸地に於ける復員業務処理のため北平出發	
二、三〇	陸軍大尉長川合三郎以下三十七名復員の為北平出發	
三、二	陸軍中佐末田保以下百五十名復員の為北平出發	
三、四	陸軍軍属丸尾八九郎以下二名(軍属)上陸地復員業務実施のため北平出發	
三、四	陸軍技手高橋大郎以下十一名(軍属)復員の為北平出發	
三、一〇	陸軍軍医少佐永野祐正以下三名(軍属)復員要員として北平出發	
三、二	陸軍少佐小林茂以下百四十一名復員の為北平出發	
三、二	陸軍曹長大栗百以下二名上陸地復員業務のため北平出發	
三、六	陸軍業務手石原鉄郎以下二名(軍属)復員の為北平出發	
三、四	陸軍少佐田頭芳太郎以下二名(軍属)復員のため北平出發	
三、八	陸軍軍曹村上象彦以下四十二名復員のため北平出發	
三、二二	陸軍中佐井上收二以下百二十四名復員の為北平出發	

(319)

2118

ス
士
多

三、二 陸軍主計中佐阿久津 武夫以下九名復員義務整理のため北平出發
五、七 陸軍大佐阿田宗彦以下三十一名復員の為北平出發
五、三〇 傳多港に上陸

戦車才三師団長山路秀男以下六名一師団長及参謀(副官一、下士四三、
兵一)は北平に於て北支那方面軍に転属し戦車才六旅団長佐武勝次師団長
代理たり

終戦後の現地除隊状況左の如し

昭和二十一年九月一日	陸軍少尉	井上昌三以下六名
同	十月三日	陸軍准尉 世尚正六
同	十二月九日	陸軍准尉 原 貞雄以下六名
同	十一月十日	陸軍准尉 井上正春
昭和二十二年二月十七日	陸軍曹長	山口 昇
同	三月二十日	陸軍准尉 伊藤正春

内地帰還時主力を分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

(320)

年月日	概
昭一七、一三、一四	綏遠省平地泉に於て編成完結爾後同地附近の警備
自昭一七、三、一四	
至昭一九、三、二五	綏遠省平地泉附近警備
自昭一九、三、二五	
至昭一九、五、三一	京漢作戦参加
自昭一九、六、一	
至昭一九、六、一五	聖賢地区会戦参加
自昭一九、六、一五	
至昭一九、七、一六	石家荘附近に集結 同地附近の警備
自昭一九、七、一六	
至昭一九、三、一六	湘桂作戦参加
自昭一九、三、一六	
至昭二〇、三、一六	湖南省邵陽泉次橋附近に於て警備
自昭二〇、三、一六	
至昭二〇、六、一六	輯連の為作戦機動

戦車才六旅団司令 部略 歴
 歴軍少将 佐 武 勝 司

概 要

(327)

2120

皇昭二〇、六、一〇	三昭二〇、八一三	昭二〇、八一四	八一五	九、三	皇昭二〇、九、三	皇昭二〇、一〇、二	一三、九	一三、一九	三、三、一九	四、三、六	五、四	五、三一
<p>河北省天津に集結 同地附近の警備</p> <p>北平に移駐</p> <p>北平に於て終戦命令を受け同地附近の警備</p> <p>豊台に移駐</p> <p>豊台附近の警備</p> <p>爾後接收及復員業務に任ず</p> <p>才一次帰還者として川田大尉以下一〇二名豊台出発</p> <p>佐世保に陸除隊、召集解除</p> <p>主力未頼少佐以下二十五名（部隊長は中阿側の命により出発停止さる）</p> <p>豊台出発</p> <p>塘沽出帆</p> <p>佐世保上陸、除隊召集解除</p> <p>現地除隊解雇者二名</p> <p>残務整理完了復員卷納す</p> <p>内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す</p>												

独立歩兵才大旅団司令部略歴

陸軍少将 多田 保

年月日	概	要
昭一九、二、二〇	南京に於て旅団司令部(才二十)歩兵団司令部(才二十)の編成を完結	
一、三〇	歩兵四大隊(独立歩兵才二百十二)大隊長幹人員才六十師団、独立歩兵才二百十二大隊長幹人員才六十(師団、独立歩兵才二百十四)大隊長幹人員才七十師団)及旅団通信隊(才六十一)師団長(才六十一)師団長幹人員才七十師団)人員旅団長陸軍少将多田 保以下五九八五名	
一、三五	安慶省、懷遠縣安慶に駐屯	
一、二九	同日正午を以て独立歩兵才七旅団より「蕪湖」湖口間揚子江に沿う水陸交通の確保」の任務を継承す	
二、二、三五	昭和十九年徵集現役兵一、〇八一一名(在岐阜中隊才四部隊より四〇七名、在名古屋中隊才二部隊より四四三名及在平壤朝鮮才四十二、四十四部隊より二三一一名)安慶に到着入隊す	
二、二八	独立混成才九十一旅団独立歩兵才六百三十五大隊編成要員として下士官以下一、二、三三名転属せしむ	
	独立混成才二十三旅団より将校十一名転入す	

(223)

2122

タノキ 6

三、一五	独立歩兵二一一大隊混九〇旅団の指揮に入る
三、二二	隊長の指揮下に入らしめられ安慶を出発す
四、二二	独立混成才二十三旅団より昭和十九年徵集現役衛生兵三十名吸入す
五、二	才百六十一師団編成要員として將校以下六十一名振属せしむ
五、五	才一次本土兵備要員として將校二十名、北即軍管区に振属せしむ
五、五	旅団長陸軍中將多田保、陸軍歩兵学校附を命ぜられ
五、九	安慶出発赴任す
五、一八	右後任として支那派遣軍總司令部附陸軍大佐門脇幹衛
五、二六	着任す
才二次本土兵備要員として	四八名
中即軍管区へ將校下士官	三名
朝鮮軍管区へ將校下士官	四名
東北軍管区へ准士官下士官	三名
東海軍管区へ將校下士官	四名
西即軍管区へ下士官	計將校准士官、下士官。右安慶を出発す 支那派遣軍野戦遊兵隊増強要員として下士官以下一八名振属せしむ。
六、三	

(374)

年月日	概	要
昭二〇、八、二〇	下士官以下一八名安慶に於て除隊（召集解除、解備）を命ず	
八、二五	將校以下七五名安慶に於て除隊（召集解除、解備）を命ず	
八、二九	指揮下に在リ、在る中支那防疫給水部才五支即支部長以下三七名輸入す	
九、一	中支那派遣遺失救習所に教育分遣中の昭和二十年度遺失下士官候補者一〇名及同遺失四〇名 計五十名中支那派遣遺失隊に転属せしむ	
九、二	正午を以て「蕪湖」湖口間 揚子江に沿ふ水陸交通の確保の任務を才百三十一師團に引継ぐ	
九、一四	安慶出発 安徽省銅陵、大通に移駐大通—蕪湖間 揚子江に沿う水陸交通の確保に任ず	
九、一八	軍無線小隊旅団の指揮下に入る	
一一、一五	軍命令に惹き、独立無線才百三十九小隊旅団の指揮下に入らしめらる	
二、一六	前記旅団の任務を中国陸軍才一七六師に移譲、武装を解除し、大通兼中営に入り中営才十戦区司令長官即日本官兵安慶区才三管理處大通分處の管理下に入る	
一三、二	韓籍將校以下（司令部所属ならず）一〇〇名才十戦区司令長官即日本官兵安慶区才三管理處に移管、同日附を以て全員除隊、召集解除を命ず	

(225)

ロ / 北支 6

三、三、一六	内地帰還の為安徽省銅陵県大通出發
三、三三	上海に到着 同地に駐留乗船を待期す
四、三	上海港出帆
四、五	博多に上陸復員式終了

(326)

2125

戦車才十三聯隊略歴

陸軍少佐

柳川清成

年月日	概	要
昭一四、二、三〇	初代 陸軍中佐 吉松喜三 二代 〃 江口廉作 三代 〃 山田信雄 四代 陸軍大佐 栗畑英之助 五代 陸軍少佐 柳川清成	本部 一 中隊 三(才一、三、三中隊) 材料廠 一
一三、一	独立軽装甲車才二中隊 独立軽装甲車才六中隊 独立軽装甲車才七中隊	漢口 本部 一 中隊 三(才一、三、三中隊) 材料廠 一
一七、三、四	独立軽装甲車才九中隊	本部 一 中隊 五(才一、三、三四、五中隊) 整備中隊 一
二一、三、〇	軍令により戦車才三師団の隷下に属す	

(327)

2126

自昭一四、二、三〇	漢口警備
至昭一五、五、九	
自昭一五、五、〇	宜昌作戦に参加
至昭一五、七、一〇	
自昭一五、七、二	宜昌警備
至昭一五、九、二	
自昭一五、九、三	漢口警備
至昭一五、二、二六	
自昭一五、二、三七	漢水作戦に参加
至昭一五、三、五	
自昭一五、三、六	漢口警備
至昭一六、一、一三	
自昭一六、一、一四	豫南作戦に参加
至昭一六、三、三	
自昭一六、三、三三	漢口警備
至昭一六、九、九	
自昭一六、九、一〇	才一次長沙作戦に参加
至昭一六、一〇、一四	

(328)

2127

年月日	概要
自昭一六、一〇、一五 至昭一六、一〇、一七	漢口警備
自一六、〇、一六 至一六、〇、一八	碓山作戦に参加
自一六、二、二 至一六、三、三	漢口警備
自一六、三、三 至一七、一、二	才二次段沙作戦に参加
自一七、一、三 至一七、三、三	京漢沿線地区掃蕩戦に参加
自一七、三、四 至一七、四、三	漢口警備
自一七、四、三 至一七、五、三	馮陽作戦に参加
自一七、五、三 至一七、五、三	漢口警備

(329)

内ノ北支

至 九、五、三	自 九、四、一、九	至 九、四、八	自 九、三、二、〇	至 九、三、九	自 八、九、七	至 八、九、六	自 八、七、五	至 八、七、四	自 八、六、五	至 八、六、五	自 八、六、八	至 八、五、四	自 八、五、五	至 七、八、三	自 七、五、三
東漢作戦に参加		南口に於て作戦準備及警備		平地泉警備			厚和警備	炭口出発厚和に移駐		漢口警備		江南蕨滅作戦に参加		漢口警備	浙漢(蕨)作戦に参加

(330)

2129

年月日	概	要
自 昭一九、六、一 至 昭一九、六、一五	聖賢地区會戦に参加	
自 一九、六、天 至 一九、七、九	天津警備?	
自 一九、七、一〇 至 一九、三、三〇	珲桂作戦に参加	
自 一九、三、三 至 一九、八、一四	湖南省特別警備並に作戦準備	
自 一九、八、一四 至 一九、八、五	大果匪戦争停戦詔書発布	
自 一九、八、五 至 一九、九、三	(西郊)に北京城内に在リマ 城内警備	
自 一九、三、二、天 至 一九、三、三、一	中国軍に対し兵器其他接收 中国九二軍に対し戦車 教育に従事すると共に警備並に作戦に参加	

外に支

<p>至昭 三、三、二 至昭 三、三、二 自 二、三、一 至 三、三、七 二、三、五 三、三、四 自 三、三、七 至 三、四、四 三、四、五 三、四、天 二、五、四 二、五、四 三、五、七</p>	<p>中国装甲総隊に対し戦車接收教育を実施 一部復員準備のため豊台に集結 部隊主力復員のため豊台出發 残部復員のため豊台出發 天津貨物廠に於て復員業務援助 上船のため天津出發塘沽に於て上船 塘沽出帆 佐世保上陸復員 復員式終了 復員完結</p> <p>内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は着略す</p>
--	---

(332)

2131

戦車才三師団戦車才十三听隊略歴

陸軍中尉 鈴木正美 以下十二名

年月日	概要
昭三、三、一九	華北天津化具物所管
四一四	天津貨物廠管理處復員待機
四一四	内地飯送目的を以て天津貨物(廠管理處出發)塘沽港到着
四一四	乗船出帆
四三	佐世保上陸
四三	除隊召集解除
	柳苗者患者なし
	内地帰還時主力と分離し復員した一部却隊の略歴は省略す

(333)

戦車才三師団戦車才十七聯隊略歴

陸軍大佐 磯方 休一郎

年月日	概要
昭一七、八、二〇	千蒙、泉、津、田、沼、町戦車才二聯隊に於て編成完結
八、二九	津、田、沼出発
九、一	守岳巻出帆
九、九	北支那昌平、泉、南口着
九、一三	綏遠省集寧、泉、平地、泉に移駐 綏、東、同地附近警備
一九、三、二一	泉、漢作戦参加のため平地、泉出発
自昭一七、三、三二	泉、漢作戦参加
至 五、三一	
自 一七、六、一	聖賢地区会戦参加
至 一七、六、一五	
一七、六、二四	次期作戦準備のため河南省石門に集結
一七、七、一〇	湘桂作戦参加
一七、三、二〇	
一七、五、八	湖南省長沙、東、結、同地附近の警備
二〇、四、一三	天津集結のため長沙出発

概

要

年月日	概	要
昭二〇、八一	<p>塲隊の主力天津に集結</p>	
八一五	<p>予後は終戦より掃蕩迄の概略に同し</p>	<p>終戦時部隊主力は天津に在りたるも一部は武昌茨口へ天津向を輸送中にし之既</p>
八一〇	<p>意渠船に努力せるも輸送機材及状況の悪化に伴い意の弱く進捗せず十日中同に</p>	<p>於て漸く其大部の集結を完了せるも一部は遂に掌握するに至らず漢口野呂砲</p>
八一三	<p>七五大鄭州第三師搜索隊及濟南四三軍に夫に依頼せしめられた</p>	<p>天津に於て終戦の命令を受け</p>
八一三	<p>北京集結のため逐次天津発</p>	<p>北京集結完了の部隊総力（本部及ミケ中隊）を以て北京出發</p>
八一三	<p>河北省石匠鎮に出勤同地附近の警備</p>	<p>一部を現地に残置主力を以て北京に集結同地西郊附近の警備</p>
八一三	<p>北京西郊地区防衛の任務を中国軍オ一ロ九師に移交す</p>	<p>此間部隊の主力を以て中国軍に對する減車移交教育に従事す</p>
八一四	<p>山崎大尉以下六三名復員のため天津出發</p>	<p>加藤伍長以下九三名復員のため機動歩兵オ三塲隊に極属の上北京出發</p>
八一六	<p>片岡中尉以下三名復員のため天津出發</p>	<p>矢島中尉以下二三名復員のため北京出發</p>
八一六	<p>矢島中尉以下二三名復員のため北京出發</p>	<p></p>

(335)

一三、六	當地兵長以下四名復員のため北京発
二、三、二	小山大尉以下二名復員のため北京発
三、三、七	中国側に対する戦車移交教育全く終了
三、三、三	聯隊主力は復員の目的を以て青木大尉指揮の下に北京出發 豊台集中營に集結
三、三、四	聯隊長（傳令三を附す）は中国側の要求に基き北京に残留 部隊主力天津集中營に集結一部同營内勤務隊勤務を担当す
四、五	丸山中尉以下二名復員のため天津発
四、一、四	神林大尉以下一名復員のため天津発
四、一、八	斎藤中尉のため天津発
四、一、五	聯隊主力青木大尉以下四三九名復員のため天津発
四、三、七	同時戦犯容疑者川合少尉以下十六名天津に残置 川合少尉以下十七名（退院患者一名含む） 復員のため天津出發
五、一、四	現地に於て残務整理中聯隊長及傳令三名は其任務終了 天津発
五、二、七	博多港上陸傳令は直に内地

集成才六五大隊才四中隊長戦車十七聯隊略歴

陸軍大尉 中村 久 人

年月日	概	要
昭三、一、二	内地帰還のため集成才入五大隊を編成同才四中隊長を命ぜらる才四中隊長編成の如し	
	才七師団才四陸上輸卒隊	二
	北支野戦砲兵隊	一
	戦車才三師団整備隊	六
	才一五一停車場司令部	一
	機動砲兵三聯隊	一
	戦車才六旅団司令部	一
	戦車才十七聯隊	四
	才二八師団迫撃砲	一
	才三独立警備隊才十七大隊	一
	戦車才三師団工兵隊	一
	才一五二兵站病院	二七
	総員	一〇〇

(338)

2137

年月日	概要
昭三二、一、一四 一、一八	内地帰還のため、港泊出帆 佐世保港に上陸 同日除隊召集解除 除隊召集解除 九九名 一名入院

(339)

2138

外ノ事

戦車第三師団機動歩兵第三聯隊略歴

陸軍大佐 加 島 起 巳

年月日	昭 二七、一三、二四	概	要
百一七、一三、一四 至一九、三、一 三、二 四、一		<p>戦車第三師団の新設に伴七旧騎兵第三聯隊及騎兵第四聯隊を合じ機動歩兵第三聯隊とし之を蒙疆包頭に於て編成を完結す(軍令陸甲第四二号)</p> <p>第一大隊(第一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十)</p> <p>第二大隊(二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十)</p> <p>第三大隊(三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十)</p> <p>聯隊砲中隊</p> <p>整備中隊</p> <p>蒙疆包頭(安北)拉各附近に在り之整備に従事す</p> <p>察漢作戦参加のため包頭出發河北省石門附近に移駐作戦参加準備す</p> <p>察漢作戦及察漢地区會戦に参加す</p> <p>(一) 龍門街附近の戦斗</p> <p>(二) 七里河附近の戦斗</p> <p>(三) 洛陽城攻略戦</p> <p>(四) 洛寧直隸戦斗</p>	

(340)

年月日	要
<p>自昭一九、七、 至昭二〇、三、一九</p>	<p>(5) 鹽臺地区戦斗 河南省魯山蒙泉鹽臺地区に於て警備に従事す 才三大隊は戦車才六挺用長佐武少将の指揮に属し湘桂作戦参加了 老河口作戦に参加す</p> <p>主要戦斗</p> <p>(1) 甯陽附近の戦斗 (2) 西峽口附近の戦斗 (3) 浙川攻略戦斗 (4) 李官橋附近の戦斗 (5) 浙川附近の掃蕩戦斗</p> <p>未対「ソ」作戦準備のため北京附近に戦車を命せられ河南浙川附近より甯陽 ―許昌―新郷―徐州―舟橋―天津を経て行軍及鉄道輸送に依り九月末日迄に主 力鹽台附近に集結了す 内地帰還のため鹽台出発 塘沽港出帆</p>
<p>自 二〇、三、二〇 至 二〇、八、一四</p>	<p>(二、七)</p> <p>一、三五 二、三八</p>

(341)

2140

一三、三	佐世保卷上陸
一三、四	復員完結す
	復員時の斯隊長
	陸軍大佐
	福
	島
	甚
	三
	郎
	内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

(342)

戦車才三師団速射砲隊略歴

年月日	概	要
昭一七、三、一四	河北省石門に於て戦車才三師団速射砲隊編成完結	
至昭一八、三	蒙疆東部平地泉附近の警備に従事	
至昭一九、八	永漢作戦参加	
自昭一九、八	河南省鄭県附近の警備に従事	
至昭二〇、三		
自昭二〇、三	老河口作戦参加	
至昭二〇、七		
自昭二〇、八、五	河北省北京附近の警備に従事	
至昭二一、一、三	より仮国復員準備	
昭二一、二、十四	復員のため塘沽出帆	
昭二一、三、一	佐世保上陸	

(343)

2142